

訓子府町の「ふるさと応援団」にご参加いただき、ありがとうございます。みなさまと訓子府町を結び便りにできればと考えております。

新たなハルニレの木植樹

開基120年記念事業の一環として、8月の台風7号の影響で倒木したハルニレの木の倒木跡地に新たなハルニレの木が、11月1日に菊池町長や上原町議会議長、姉妹町である津野町の池田町長、大崎町議会議長、訓小6年生など約50人によって植えられました。



訓子府町開基120年記念式典

開基120年記念式典が11月1日、町公民館で開催されました。

まず、オープニングではスライドにより「先人と共に築いた120年」が上映されたあと、開拓先人の霊に黙とうが捧げられました。続いて、訓子府高校の生徒の島田玲夏さん(2年)と谷口玲奈さん(1年)の2人による町民憲章の朗唱、菊池町長が式辞を述べ、顕彰式へと進められました。

顕彰式では、町の発展に尽くされてきた特別功労表彰13名、功労表彰3名、善行表彰3名と1団体、昭和元年以前生まれで町内に70年以上住み続けている永年在住者98名、100歳を超えている長寿3名、ふるさとくねっぷ会の役員6名の合わせて、126名と1団体が表彰されました。式典には、町内外から約190名が出席し、開基120年を盛大にお祝いしました。

また、式典後には町内史跡巡りを行い、居武士小学校校庭にある旗幟碑や中央公園内の開基百年記念碑、レクリエーション公園内の故水本修二彫刻作品「関係空間」など、町内各地を巡りました。その後の祝賀会では、町民合唱団KNPによる「わが地・わが町 訓子府」の合唱が披露され、節目に花を添えました。



開基120年記念事業まもなく完結、「歴史をつなぐ責任と新たなる始動！」

明治30年5月8日、高知県人13戸45人の方々が開拓の鍬を打ち下ろしてから120年の歳月が経ちました。「みんなでつかった120年 僕らがつなぐくねっぷ」を合言葉に、昨年からはまった「フォトコンテスト」や、今年4月1日スタートの認定こども園「わくわく園」開設、24年ぶりに復活した「町民運動会」、「いっこく堂スーパーライブ」、「日本ハムファイターズ応援ツアー」、「姉妹町津野町の津野山古式神楽公演」、「ふるさとまつり・八代亜紀歌謡ショー」、健康まつり「鎌田寛講演会」、まもなく町民40人とともに出発する高知県津野町へ「開拓の歴史を訪ねる旅」、日本ハムファイターズ応援大使「矢野謙次選手と谷口雄也選手を囲んでトークショー」、最後は12月9日NHK公開番組「ふるさと自慢うた自慢」等々、これらに冠事業を加えると一年をかけて多くの事業が開催され、町内外から大勢の方に訓子府町へ駆けつけていただきました。



前後しますが10月28日には本町出身で世界的彫刻家・故水本修二氏の作品「関係空間」を旧国立こどもの城(渋谷)から移設しました。芸術・文化の薫り高い町づくり「パブリックアート構想」が新しい一歩を踏み出そうとしております。まさに歴史をつなぐ新しい一歩が始動します。



わくわく幼年消防クラブが防火にひと役

秋の火災予防運動（10月15日～10月31日）にちなみ、訓子府町認定こども園わくわく幼年消防クラブの園児91人が10月7日、町内の企業など75か所を回り、防火を呼びかけました。

法被（はっぴ）を着た園児が、自分たちがモデルとなったポスターを配布し「火事に気をつけてください」と呼びかけていました。

また10月14日には防火パレードと放水体験を行いました。防火を呼びかけるとともに、園児たちは「火遊びはしません」と誓っていました。



秋まつり素人縁日にぎわう

「2016秋まつりふれあい素人縁日&くねっぷ元気ステージ」が9月17日と18日、仲町公共駐車場で行われました。家族連れなどが大勢詰めかける中、キャラクターすくい射的、焼き鳥などの露店のほか、特設ステージでは、キッズダンスなどが繰り広げられ、会場を盛り上げました。また、歴史館内で秋の子ども祭りも開催され、訓子府高校ボランティア部によるアイロンビーズ作りやネイルアートなどのほか、着物を着る体験など、子どもたちは訓子府の秋を存分に楽しんでいました。



くねっぷの未来づくり大会

「防災活動を考える」と題した、くねっぷの未来づくり大会が10月15日に町公民館で開催されました。

日本赤十字北海道看護大学の教授である、根本昌宏氏を招いて「地域でできる・考える防災対策」の講演や防災活動の事例発表、グループ討議を行いました。近年、自然災害が多発しており、各町内会などの地域での取り組みの課題や防災意識、防災活動を改めて考える機会となりました。

